2022年(R4年)
5月
No. 361

ひとはつうしん

誰でもが共にくらせる社会を…
(字:水田淳也)
HITOHA
(ホームページアドレス)http://hitoha-fukushi.com (メールアドレス)honbu@hitoha-fukushi.com

社会福祉法人 ひとは福祉会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

「新型コロナよけのまもりがみ、ライオンぞうだ!!」

色あざやかな季節がやってきました。毎日テレビに映される灰色の街を見るたびに心が痛みます。みなさんお元気ですか。

「コロナ禍」という言葉を使うようになって2年。ひとは窯の杉岡知哉さん、大好きな美術館へのお出かけも控え、みんなで楽しめる旅行もなくなり、息が詰まる毎日を送る中で考えました。

「日本や世界中で、新型コロナがいっぱいはやってる。コロナなんかもううんざりだ! 僕が新型コロナよけのまもりがみを作る」

それから杉岡さん、オリジナルの「ライオンぞう」を作り始めました。

ひとは窯で制作しています。

コロナ禍だからしょうがないよねとあきらめムードの私たちは、杉岡さんの前向きなアクションに発奮させられました。今できること、やれることは考えればいっぱいあるはず。

工房では来月6月に、10年前からみんなで作ってきた『ひとはガーデン』の一般公開を計画しています。ブルーベリーが実るころには、たくさんの方々に来ていただき、楽しんでもらっている光景を思い浮かべながら、彩のある毎日を送りたいと思います。

(ひとは工房 伊藤 千代子)

あたらしい仲間がふえました

きらら

名前 中山晴喜
所属 ひとは工房
好きな食べ物 刺身、ラーメン
苦手な食べ物 特になし
好きなこと
ドライブに行くこと

名前 中尾元気
所属 ひとは作業所
好きな食べ物 揚げ物、煮物
苦手な食べ物 たまごやき 炭酸
好きなこと
絵を描くこと

名前 川口智大
所属 ひとは作業所
好きな食べ物 カレー、牛肉
苦手な食べ物 エビ
好きなこと
ひとはのキーボード

令和3年度 ひとは福祉会後援会会計報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
会費 413名(法人含む)	1,721,799	ひとは福祉会へ寄付	1,000,000
		役務費(切手代、手数料)	449,368
冊子収入	1,000	事業部工賃(いきがい)	35,000
		事業部工賃(ひとは窯)	35,000
利子	1	事業部工賃(あっぷ)	35,000
		印刷代他	150,139
前期繰越金	93,906	小計	1,704,507
		当期繰越金	112,199
合計	1,816,706	合計	1,816,706

担当:岡川

ひとはの日々

「男は黙って…」

西本邸の高伏さんは、「僕が絵を描けるのも親のおかげ」と言う優しい人です。毎日夕食準備の時、食器を出して並べたり、出来上がったおかずを配ったりしてくれて本当に助かっています。その時仕事先やテレビで観たり聞いたりした情報を話してくれます。先日もみんなの食器を洗いながら「ねえねえ、みてみて。男は黙ってするのが男と言われた。」と。黙っていられないのが高伏さん。そうじゃね。これからもよろしくね！

（ひとは長屋　中川和恵）

「一緒に寝ようね」

夜勤に入るときに増長さんがよく言う言葉です。　増長さんは夜中に寝付けないと、部屋から何度も出入りして大きな声を出したり、トイレの備品を持ち出したりとイタズラをします。時には夜中に何回も何回も部屋の出入りがありました。

そこである日、増長さんの部屋で一緒に寝てみることにしました。「側にいますから。」と伝えると、トイレに行くとき以外は落ち着いて部屋で寝るように。本当は寂しくて誰か側にいると安心できるのかもしれません。

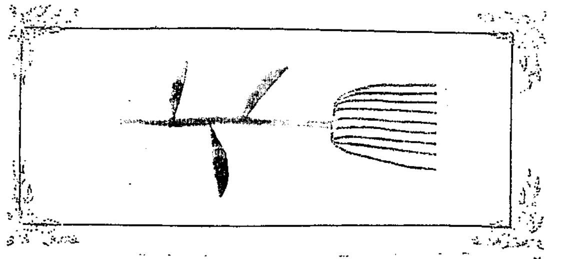
（共同ホーム　仲増雅宏）

「心はいつもやっかいで…。」

集中したらピカイチで仕事をされるひとは農園の井上隆裕さん。「電車に乗って広島にSTUのコンサートを観に行きたい！」「携帯電話がほしい！」「ひとはガーデンに女子高生を招待したい！」など、たくさんの希望が、働く原動力となっています。しかし、すぐに叶うことばかりではないので、その思いと葛藤する日々。混乱することもしばしばあります。そんな時にぽつりと一言。「心はいつもやっかいで…。」と。私には妙にしっくりと来ました。井上さんと同じようにやっかいな心と向き合っている日々です。

（ひとは工房　岡崎梓）

語り継ぎたいこと　―こころえ帖　改訂版―



（絵：川崎茂）

自分はそっと誉め、きららは大っぴらに誉め

（字：松田夕貴）

地道という言葉があります。自分の信念に基づいて目指すべきものをコツコツと継続するということです。最初から高く評価されることはないかもしれません。それでも自分の中では、「よし！　よくやった」と納得しながら続けることができるのは、周囲の評価より自分自身の評価を実感できるからです。そんな時には、しっかり自分で自分を誉めましょう。

一方、きららはあなたの協力（支援）がなければなかなかそういう機会は訪れてきません。過去の経験の中でもプラスの評価を実感することは少なかっただろうと思います。きららの実践を確実に認め、集団の中でもしっかりと評価したいものです。

編集後記

ひとはが始まった頃（37年前）重広さんは給料の1万円（全額）を畳の下に入れているとニヤリとした。ささやかな日常をそのままに、むずかしいことをわかりやすく「ひとはつうしん」は続いてきた。同情ではない共感の輪が「後援会」となりひとはは支えられている。ニヤリとしたあの給料はその後？彼の好物の「クリームソーダ」をもっと注文すれば！「どう使おうかね？」と一緒に考えることも。「今一人暮らしをする彼は忘れた」とつぶやく。

寺尾順子